

代表理事候補	<p>(1) 田中 一彦 (たなか かずひこ)</p> <p>この度、代表理事に立候補しました松阪中央総合病院の田中一彦です。</p> <p>県士会活動には、平成6年より渉外部長、組織部長、副会長を務め、会長職は、平成27年度より3期6年間活動を行ってきました。</p> <p>令和元年～2年度は、常設部局の活動推進、時節の課題に対応する特設委員会を設置し活動を行ってきました。令和3年度は、特設委員会を再編するとともに、地域リハビリテーション部、学術部、広報部、啓発部の機能編成、常設委員会に戦略企画委員会を新設し組織改編を行います。</p> <p>今後の課題として、COVID-19感染対策を考慮しながら、県民に対する作業療法サービスの提供、会員に対する教育・学術支援、作業療法士を目指す人々に対する啓発活動の推進、行政・関連団体との連携等が挙げられます。</p> <p>コロナ禍の事業展開には、様々な課題がありますが、県士会員、理事、監事の方々の協力をいただきながら、県士会活動を推進していきたいと考えています。</p>
理事候補	<p>(1) 石崎 健 (いしざき たけし)</p> <p>全国的に見れば規模の小さい県士会ですが、それでも年を追うごとに県下のOT数はすごい勢いで伸びており、それに伴った組織力も求められていると思います。これまで熱意のある方や真摯に県下のOT事情に向き合おうとしてくれる方々に支えられてきた県士会ですが、OTの母数が増えるに従い、運営に関与する方とそうでない方での「温度差」は広がり、関与する側の「限界感」や「燃え尽き感」、関与しない側の「やらされ感」や「不信感」といったものがますます無視できないものになってきていると感じます。</p> <p>県民のみなさまに作業療法を通じて貢献する、そのための力を備える、というのが県士会の目的であり、それを通じて我々OTの地位を守ることができるのだということをいま一度共有したいです。今の県士会で不足しているのはコミュニケーションです。ぜひ交流の場で意見を交換し合い、皆が主役で皆が運営者の県士会を作っていきましょう。</p> <p>(2) 佐藤 明俊 (さとう あきとし)</p> <p>この度、理事に立候補しました佐藤です。平成15年に理事になり、今季で18年、9期目を迎えます。就職当時から事務局員を経て、副会長まで歴任させて頂きました。</p> <p>今年の選挙から、理事会は組織改革・部局編成を行い、中長期的な戦略を今まで以上に考えながら取り組むべく戦略企画委員会を設立します。理事継続が決定したのちには戦略企画委員会も携わる予定でもあります。会員の皆様に還元できる理事会組織運営ができるよう、戦略企画委員会を成熟させ私の理事最後の仕事にしていきたいと思っております。今季もご支持のほど、宜しくお願い致します。</p> <p>(3) 島崎 博也 (しまさき ひろや)</p> <p>私は平成14年度より三重県作業療法士会啓発部に所属しており、平成29年度より理事として活動しています。作業療法士が地域貢献を行う職種として必要とされるために、リハレンジャー</p>

を中心とした啓発イベントや高校生作業療法体験・見学会イベントを実施しています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で啓発活動は制限されましたが、県内高校生にオンラインで作業療法説明会を行い好評でした。今後も、次世代の作業療法士を発掘する為に高校生への啓発活動を軸として活動していきたいと思っております。

また、こころとからだを元気に自分らしく生きるためのリハビリテーションとして、幅広く柔軟に対応できる作業療法士を、公開講座などを通して多くの県民の方に活用していただけるよう様々な視点で啓発していきたいと考えます。今後も、県士会員の皆様が作業療法士として様々な所で活躍でき、満足いただけるよう理事として誠心誠意活動していきたいと思っております。

(4) 富中真悟 (とみなか しんご)

今回、教育部部長に立候補しました、三重県立総合医療センターの富中真悟です。ここ数年作業療法士の取り巻く環境に変化が続いています。厚生労働省指定臨床実習指導者講習会の開催、生涯教育手帳電子化への移行など毎年のように急激な変化が続いています。また COVID-19 の影響により 2020 年度は遠隔会議システムを利用しての現職者共通・選択研修や講習会をすすめました。まだまだこのような状況が続くと思われまます。臆すことなく、三重県作業療法士会会員や三重県県民の方たちへの力になれるように精進していきたいと考えています。よろしくお願ひします。

(5) 牧野 有華 (まきの ゆか)

この度の選挙で立候補いたします牧野有華と申します。

今まで組織部長として2期4年間、活動させていただきました。令和元年度からの2年間の活動報告としては、まず県士会員の興味関心と県士会活動をつなげるため Google フォームでの調査を行いました。特に昨年度は COVID-19 対策に関する情報交換会を災害対策委員会と協力して2回実施するなど会員にとって必要な情報をタイムリーに提供できたと思ひます。また、今年度に向けて県士会の組織編成案を作成し、理事会で継続的に話し合ってきました。

県士会という集団に所属することへの捉え方は会員それぞれだと思ひます。ただ、組織としてまとまっていないと他団体や県・国などに認めてもらえませなし、声を上げてはくれませなし。次の世代にも作業療法士という職業をつなげていく為に何ができるかを考え、会員の皆様と一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

(6) 宮坂 裕之 (みやさか ひろゆき)

このたび、一般社団法人三重県作業療法士会の理事に立候補させていただきました、宮坂裕之です。

これまでも、広報部長、運転と作業療法委員長として、広報誌の発行、研修会の運営に携わってきました。作業療法士が社会から求められることも年々変化しており、広報誌の内容もそれに合わせて作成してきました。あらゆる分野での活躍が「期待される」、「必要とされる」ためには、広報の役割は重要であると思ひます。

今回、引き続き、理事に立候補させていただきますが、法人の理事として微力を尽くしたいと思ひます。よろしくお願ひ申し上げます。

	<p>(7) 山本 泰雄 (やまもと やすお)</p> <p>これまで地域貢献などを目的とした事業部、地域リハビリテーション部での活動に携わってきました。昨今では地域ケア会議や総合事業、多職種に向けた講演会などへの作業療法士の参加依頼が増えています。これは、各市町に担当窓口を設け自治体や他団体との関連を深め、依頼に対応してきた一定の成果だと考えています。しかしながら、作業療法の視点をもって地域に貢献できているかについては課題が残っていると感じています。課題解決にむけて、各市町の地域包括ケアシステムの実態把握と地域での作業療法活動の促進が必要です。またそれと並行して、活動や悩みを共有できる場づくりや人材育成などの活動が必要であると考えています。私達作業療法士にできることを明確に発信し、地域で活躍できる作業療法士を支援できるよう、引き続き尽力したいと思います。何卒、ご支援賜りますようお願いいたします。</p>
監事候補	<p>(1) 永田 穰 (ながたみのる)</p> <p>令和3年度当初予算案の収入総額は4,810,000円(令和2年度補正予算は4,100,000円、以下同じ)で、内訳は会費収入3,565,000円(3,460,000円)、入会金収入50,000円(40,000円)、事業収入1,195,000円(600,000円)です。令和2年度に新型コロナウイルスのため中止となった事業を、令和3年度はオンラインを活用して再開するため事業収入が倍増する予定です。</p> <p>支出総額は3,810,000円(3,761,000円)で、内訳は旅費交通費549,000円(1,833,000円)、印刷製本費320,000円(467,000円)、通信費348,000円(661,000円)、会議費0円(358,000円)、給与704,000円(0円)などです。オンライン活用により旅費交通費が3分の1となります。印刷した三重県作業療法学会誌を会員に配布しないことになったため印刷製本費と通信費が減少します。社員総会で承認されれば令和3年度から役員や部員、委員に給与を支給する予定です。</p> <p>引き続き一般社団法人三重県作業療法士会の運営を監査していく所存です。よろしく願いいたします。</p> <p>(2) 橋本昌弘 (はしもとまさひろ)</p> <p>この度、監事に立候補いたしました橋本昌弘と申します。</p> <p>三重県作業療法士会では、約20年間理事を務めました。会長、副会長、事務局長、渉外部部長等を務めてきた経験を活かし、作業療法士会の運営がより活発かつ適正になるように意見を述べていく所存です。どうぞよろしくお願い致します。</p>